

ダニエル書 9：18～19

ルカによる福音書 11：9～13

「求める者は受ける」

(ハイデルベルク信仰問答 祈りについて 問 117)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】 コリントの信徒への手紙二 5章 17節

【讚美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 143編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55：7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 7 「ほめたたえよ、力強き主を」

【祈祷】

【聖書】 ダニエル書 9：18～19、ルカによる福音書 11：9～13

【説教】 「求める者は受ける」

<神さまに喜ばれる祈り>

主の日の礼拝では、『ハイデルベルク信仰問答』に基づいて、聖書の御言葉を聞いています。先月からは、「祈りについて」の信仰問答に入りました。

そして今回は、問 117 で、神さまに喜ばれる祈りとはどのようなものか、ということ。つまり、神さまが求めておられる、わたしたちが祈る時の心の姿勢、態度について語られていました。今回も、同じ問 117 を見ますので、どうぞ「日々の祈り」をご覧ください。

さて、神さまに喜ばれる祈りについて、わたしたちが祈る時の心の姿勢について、問 117 では、大きく三つあげられていました。一つ目は、唯一のまことの神さまに対してのみ、求めるようにと命じられた、すべてのことを祈ること。二つ目は、自分の罪と悲惨さを悟ってへりくだって祈ること。三つめは、主キリストのゆえに、祈りが聞き入れられるという揺るがない確信をもって祈ることでした。

今日は特に、三つ目の、「主キリストのゆえに、祈りが聞き入れられるという、揺るがない確信をもって祈る」ということについて、ルカによる福音書から、御言葉をご一緒に聞きたいと思います。

<聖霊が与えられる>

今日のルカによる福音書の箇所は、イエスさまが、弟子たちに「主の祈り」を教えてくださいました後に、続けて語られた御言葉です。神の御子イエスさまご自身の、約束の御言葉です。10：9～10 にはこうありました。

「そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」

そして、13節の最後の方には、「まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」とあります。

つまり、イエスさまが、求めなさい。そうすれば、与えられる、とわたしたちに約束してくださっているのは、「聖霊なる神さま」のことなのです。

聖霊なる神さまは、わたしたちに信仰を与えてくださるお方です。イエスさまとわたしたちを一つに結び合わせ、イエスさまの十字架と復活の救いの恵みを、わたしのものとして受けさせてくださるお方です。そして、神さまとの親しい関係、愛の交わりを与えてくださる方であり、わたしたちを神の子としてくださるお方です。

このように、聖霊なる神さまは、わたしたちがイエスさまの救いを受け、罪を赦され、神さまと共に生きる者となるために、働いてくださるお方なのです。

つまり、聖霊を求めて与えられる、というのは、わたしたちが救われる、ということであり、神さまと共に生きる命を与えられる、ということです。

これこそ、わたしたちが、心から求めるべきこと。祈り願うべきことなのです。

<求めなさい>

だから、イエスさまは言われます。「そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」

しかし、この言葉は、聖書の言葉とは知られずに、世の中でも、よく使われている言葉かもしれません。その多くは、与えられるためには、自分で進んで、積極的に求めていく姿勢が大事だ。そうして熱心に求めることで、成果が得られる。必死に求めることで、望んだ結果が与えられる。そのような意味で捉えられていると思います。

でも、イエスさまは、「求めれば、その結果、手に入れられる」とか、「求めれば、きつとつかみ取れる」とは言うておられません。

「求めれば、与えられる」のです。与えられる。つまり、それは自分で手に入れるものではなくて、神さまが持つておられ、神さまがくださるものである、ということです。

そして神さまは、「ちゃんと欲しいって言わないと、あげないよ」と、いけずしておられるわけではありません。むしろ、神さまは先に、わたしたちの目の前に、すべての救いの恵みを差し出してくださっているのです。

受け取りなさい。受け取って欲しい。あなたには、これが必要だ。あなたは、これがなければ生きられないのだ。あなたに滅んで欲しくない。あなたを救い、癒し、守りたいのだ。

そう言って神さまは、わたしたちがそれを求めて、受け取ることを、今か今かと待っておられるのです。

わたしたちに差し出されているのは、聖霊であり、イエスさまの救いであり、罪の赦しであり、新しい命です。これらは、いつでもあなたに与えられるために用意されている。差し出されている。だから、「求めなさい」と言われているのです。

ということは、反対にこれらを「求めない」というのは、どういうことなのでしょう。それは、自分に救いは必要ないと思っている、ということです。

自分は、神さまと言う存在に救われる必要はない。困っていない。関心がない。神さまと共にいなくても大丈夫。神の子とされなくていい。復活も信じない。神さまの恵みなしで、自分の力で、生きていける。そう思っている、ということです。

そうであるなら、差し出されている恵みを、与えられようがありません。だって、それらを、求めていないのですから。受け取る気がないのでから。

しかし、本当はわたしたちの誰もが、神さまの救いを必要とする者であるということ。神さまなしでは生きられないということ。神さまが共にいてくださらなければ、何の慰めも希望もない、ということ、知らなければなりません。

わたしたちは、自分の弱さを、貧しさを、罪深さを、知らなければならぬのです。

<主キリストのゆえに>

そのためにこそ、このことを語って下さった神の御子イエスさまは、この地上に、わたしたちのところに、来られたのです。そして、わたしたちの罪をすべて背負って、十字架の死へと向かわれたのです。

イエスさまの十字架の苦しみと死は、わたしたちの罪の審きを、代わりに受けてくださったためのものでした。神さまに背き、離れ、罪を犯した人間の審きを、滅びを、その末路を、イエスさまが、すべて代わりに引き受けてくださったためのものでした。

わたしたちは、イエスさまの十字架を通して、わたしたちの罪は、神の御子が苦しんで、恥を受けて、叫んで、死ななければならなかったほどに、大きく、深刻なものであった、ということ、を教えられているのです。

それほどに、神さまに造られた人間が、神さまなしで生きようとする傲慢さは、大きな罪なのです。神さまの怒りと、悲しみと、審きを招くことなのです。

そして、神さまに裁かれ、神さまから引き離され、見捨てられることは、わたしたち人間には耐えられないほど、絶望的で、苦痛に満ちた、悲惨なことです。まさにそれは、人間のまことの死であり、永遠の滅びなのです。

しかし、わたしたちをそこに至らせないために。天の父なる神さまによって、神の御子イエスさまが、救い主として遣わされたのです。

イエスさまは、罪の只中にいるわたしたちの所に来られました。

そして、自分の罪の悲惨さに気付いてもいないわたしたちに、ご自分の十字架を通して、その罪を明らかにされると共に。それをすべて引き受けて下さることで、罪を赦し、救ってくださる、神さまの愛と憐みを示してくださったのです。

御子イエスさまは、いつまでも、どこまでも、わたしたちと共にいてくださるお方です。

ご自分の十字架の苦難と死を通して、わたしたちの最も悲惨な、罪と、悲しみと、嘆きの、底の底にまで降ってくださり、そこで、わたしたちを受け止めてくださるお方です。

ですから、わたしたちが、神さまに向かって、ただどうしようもなく、救ってください。助けてください。守ってください。そう叫ぶしかないとき。イエスさまは、すぐそばで、その叫びを聞き取ってくださいます。救い主であるイエスさまご自身が、絶望の果てのようなところであっても、わたしと共にいてくださいます。

そして、語りかけて下さいます。あなたの苦しみも、悲しみも、罪も、すべて知っている。それをすべて背負ったわたしが、共にいる。あなたの罪は、悲惨さは、滅びは、わたしがすべて引き取る。だから、あなたは神さまの許に立ち返りなさい。罪を赦していただきなさい。恵みを受け取って、新しい命をいただいて、神さまに生かされる者になりなさい、と。

「天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」。聖霊を受けなさい、と。

聖霊を受ける、ということは、繰り返しになりますが、わたしたちが信仰を与えられ、十字架と復活のイエスさまと一つに結ばれ、罪を赦され、新しい命をいただく、ということです。神の子とされる、ということです。

そしてそれは、どのような時にも、神さまが、わたしたちと共にいてくださる、ということです。苦しい時も、哀しい時も、生きている時も、死んだ時も、死んだ後も。わたしを愛しておられる神さまが、すべてを支配しておられる神さまが、わたしと共にいてくださる。これが、わたしたちの救いなのです。

求めれば、与えられるのです。探せば、見つかるのです。門をたたけば、開かれるのです。

わたしたちが求めるなら、父なる神さまは、喜んで、聖霊を与えてくださいます。

そのとき、わたしたちは、ずっと以前から、愛を注ぎ、赦しを差し出し、名前を呼び続けてくださっている主を、すぐ近くに見出すことができます。

そして、天の門は、すでにイエスさまによって開かれており、すでに招待状が届けられ、席も用意されており、あとは、わたしが招きを受け取って、返事をするだけであることを、知らされるでしょう。

神さまは、このように、すべての恵みを整えて、わたしたちが求めることを、待っておられるのです。

<最も良いものを>

ですから、わたしたちが求めて、与えられるものは、神さまが用意してくださったものであって、自分の願ったものや、欲しいものではありません。

わたしたちの心の願いは、とても自己中心的な、自分勝手なものです。しかし、時には、きわめて切実な、涙ながらに求めるような、叫んで懇願するような、そんな願いもあります。生活のこと、健康のこと、将来のこと、愛する者のこと。何を引き換えにしても、叶えて欲しいと心から願う、そんな求めも、確かにあります。

神さまは、それらもすべて、よくご存知であられます。わたしたちの心の思いを、深く、よく、知り尽くしておられます。

その上で、やはり、わたしたちに最も必要なものは、わたしを愛してくださる神さまが、いつも共にいてくださる、という確信なのです。わたしたちが、このお方のものである、という確かさなのです。

その信仰を与えられることが、「聖霊を与えてくださる」ということなのです。

神さまは、わたしたちに必要なものを、わたしたち以上にご存知であられます。

…救いの完成の日が来るまでは、終わりの日が来るまでは。わたしたちの現実の中には、苦しみも、悲しみも、病も、死も、罪も、悪も、必ずあるでしょう。でも、わたしたちは、それらに支配されているのではない。それを知ることが、わたしたちには必要なのです。

わたしたちは、色々、大切なものを失っていくことがあるでしょう。でも、神さまの愛と救いは、絶対に失われない。それを信じるのが、わたしたちには必要なのです。

…十字架の死によって、わたしたちの苦しみも、悲しみも、罪も、死も、すべて背負ってくださったイエスさまは、死者の中から復活させられました。

それは、イエスさまが、罪にも、悪にも、死にも勝利された方であるということ。この方こそが、天も、地も、見えるものも、見えないものも、すべてを本当に支配しておられる方であるということが、明らかにされるためでした。

ですから、どのような悲惨の中にあっても、困難の中にあっても、神の御子イエスさまが共にいて、神の国へ導いてくださる。罪が満ちている現実にあっても、わたしたちを支配しているのは、イエスさまの愛と赦しである。たとえ死の力に圧倒されても、本当に命を支配しておられるのは、復活の主であり、この方の御手に、死んだ者も、生きている者も、自分も、安心して委ねてよい。

そして、終わりの日には、必ず、神さまが救いを完成させてくださり、新しい天と地を来たらせてくださり、すべての者の目の涙を、ことごとくぬぐい取ってくださる。

わたしたちは、これらのことを、確かなこととして、信じてよいのです。

そして、この信仰こそ、わたしたちに最も必要なものであり、わたしたちにとって、最も良いものなのです。

<祈り求めて>

ですから、わたしたちは、イエスさまが命じて下さったように、聖霊を求めて、祈りたいのです。そして、神さまの愛は、救いは、イエスさまのご支配は、決して失われることのない、揺らぐことのない、確かなことであるとの信仰を、いただきたいのです。

…そして実は、わたしたちが、神さまに対して祈る時。もう、祈っていること自体が、わたしたちに、聖霊なる神さまが与えられている、確かな証拠でもあるのです。祈ることそのものが、父なる神さまとの交わりなのです。そして、そこには、罪を赦し、祈る者としてくださった御子イエスさまが、確かに、共にいてくださる、ということなのです。

祈りは、わたしたちが、神さまと共に生きていることの、まことに確かな「しるし」です。

…祈りには、神さまと共にある、慰めと平安があります。また、祈りが、わたしたちを悔い改めと感謝へ導き、愛と赦しへ生きることを促し、力を与えます。

そして、祈ることによって、わたしたちは、ますます神さまを深く知り、ますます神さまと親しくなり、ますます神さまにより頼み、ますます神さまを愛するようになるのです。

だから、イエスさまは言われます。「そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」

この新しい一年、わたしたちは、ますます祈り求める者になりたいと願うのです。

【お祈り】 天の父なる神さま

イエスさまが、「求める者は受ける」との御言葉をくださいました。

どうか、聖霊を与えてください。あなたの愛を、救いを、恵みを、心から求める者とならせてください。そして、すべての恵みを、受け取らせてください。

そして、神さまが共にいてくださる喜びを、幸いを、ますます確かにされ、ますますあなたを愛し、ますますあなたにより頼み、ますますあなたを礼拝する者とされますように。

主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 500 「神よ、みまえに」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】

【讃美歌】 77 「パンくずさえ拾うにも」

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン